平成23年度資源評価票（ダイジェスト版）

標準和名 キチジ

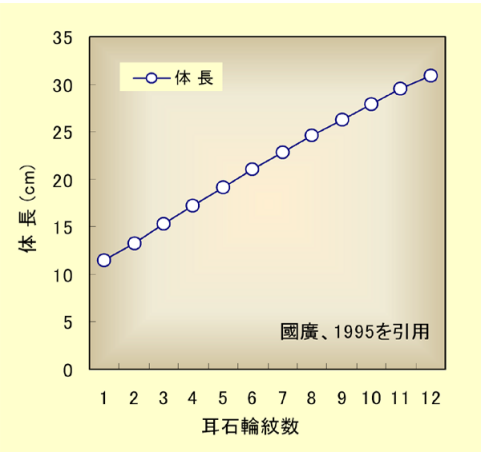
学名　*Sebastolobus macrochir*

系群名　オホーツク海系群

担当水研 北海道区水産研究所

生物学的特性

寿命:　不明
成熟開始年齢:　不明
産卵期・産卵場:　産卵盛期は春季（4～5月）、産卵場は不明
索餌期・索餌場:　北見大和堆東側と知床半島周辺の大陸棚斜面に分布、主な分布水深は300～1,200m
食性:　魚類、クモヒトデ類など
捕食者:　不明

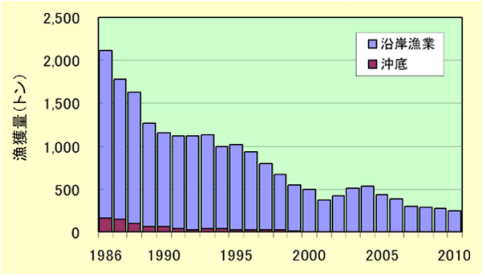


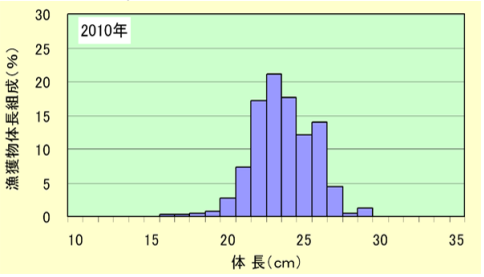
漁業の特徴

延縄、刺し網などの沿岸漁業と沖合底びき網漁業（沖底）により周年漁獲されている。近年の漁獲量のほとんど全ては、沿岸漁業によるものである。

漁獲の動向

オホーツク海と根室海峡における沖底と沿岸漁業の漁獲量は、長期的にみて減少傾向にある。1986年に2,000トンを超えていた漁獲量は、2001年には377トンまで減少した。漁獲量はその後増加傾向を示し、2004年には533トンとなったが、その後再び減少し、2010年には252トン（暫定値）となった。1996年以降、オホーツク海においてロシア漁船がキチジを漁獲しているとみられるが、漁獲実態の詳細は不明である。



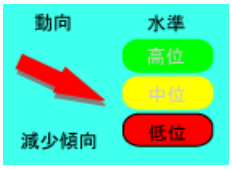


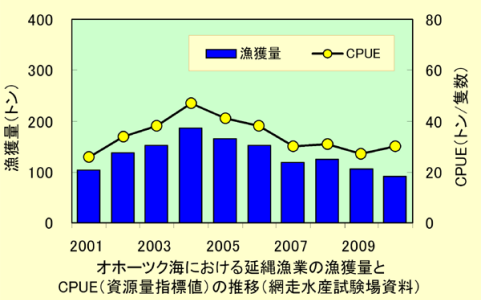
資源評価法

漁獲量の年変化と漁獲物の体長組成から資源を評価した。オホーツク海における延縄漁業（知事許可漁業）の2001～2010年の操業隻数は3～4隻となっており、漁獲努力量が安定していると考え、2001年以降の当漁業のCPUE（操業隻数あたりの漁獲量）を資源量指標値として用いた。また、漁獲物（延縄）から採集した標本と銘柄別水揚げ記録を用いて、漁獲物の体長組成を推定した。

資源状態

各海域の漁業種類別の漁獲量データがそろう1986年以降の25年間（1986～2010年）の漁獲量から、現在の資源水準は低位（最高値～0を3等分して判断）と判断された。また、2006年以降の資源量指標値の変化から、資源動向は減少傾向と判断された。2006～2010年の漁獲物からは、豊度の高い年級群の出現を確認できなかった。





オホーツク海における延縄漁業の漁獲量と
CPUE（資源量指標値）の推移（網走水産試験場資料）

管理方策

資源回復のためには、漁獲圧を大きく下げる必要がある。資源量指標値の2006年以降の直線的な減少傾向が2012年まで継続した場合、2012年の指標値は、2006～2010年の指標値平均値に0.77をかけた値となる。資源を回復させるため、係数δ3を0.7として2006～2010年の平均漁獲量にかけて、ABClimitを算出した。本資源は極めて低い水準にあり、かつ減少を続けている。未成魚が成熟するまで獲り残し、再生産に振り向けることが、資源状態の改善に有効であると期待される。したがって今後とり得る方策としては、全体的な漁獲圧削減に加えて、漁獲物のサイズ制限が有効と考えられる。

	2012年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	210トン	0.7Cave5-yr	－	－
ABCtarget	168トン	0.8・0.7Cave5-yr	－	－

- 年は暦年（1月～12月）

資源評価のまとめ

- 現在の資源状態は極めて低い水準にある
- 2006年以降の資源量指標値の変化から、資源動向は減少傾向と判断される
- 2006～2010年の漁獲物からは、豊度の高い年級群の出現を確認できない

管理方策のまとめ

- 漁獲努力量の削減が必要
- 未成魚が成熟するまで獲り残し、再生産に振り向けることが、資源状態の改善に有効であると期待される

執筆者：濱津友紀

資源評価は毎年更新されます。